



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



会員の皆さん、 友人の皆さん、

私たちはすでに復活祭の雰囲気
のなかにあります：救い主の復活
祭、終わりが見えないかのような聖
金曜日を経験している人々の復活
祭です。

南スーダンや世界のほかのさま
ざまなところで、何百万もの子ども、
女性、男性たちが、勇気と希望
をもって、イエスの傍らで、それぞ
れの十字架を担っています。私たち
の使命は、私たちの“復活”の召命
を輝かせます。今日のヴェロニカ、
あるいはキレネのシモンとなる召
命、またはキリストの勝利の使徒、
エマオへ旅する弟子たちに倣うも
の、落胆した、あるいは失われた兄
弟姉妹に手を差し伸べ、内なる炎
を燃え立たせることのできる巡礼者
となる召命です。み言葉を通して、
パンを裂くことを通してまことのあ
かしをさせる、その炎を。

皆さんに、
復活の喜びを申し上げます！

■ アフリカ・マダガスカル地域顧問
アルフォンス・オウドゥー神父
SDB

「Missio inter gentes 人々の中での宣教」を理解する



第二バチカン公会議後、アジア-いにしえからの宗教、豊かな文化、多種多様な貧しい人々の
地-では、「missio ad gentesすべての人への宣教」に関して困惑感が広がりました。無神経な
押し付けと感じられたのです。教師と生徒、外国人宣教師と土地の人々という関係を生み出すも
のだと。キリスト教は、アジアではいまだに「異国」のものと考えられています。イエスがアジア大
陸に生まれた方であるにもかかわらず！ 今、アフリカでも、アジアでも、出身の大陸で働きます
ます多くの宣教師が、生まれたときから多文化の中で、さまざまな文化が交流する中で育ってい
ます。彼らは子どものときから、最も貧しい環境を、直接、**経験**しています。その宣教活動は、福
音を直接的に宣べ伝えるというよりも、**愛と奉仕のあかし**を通してイエスの教え、イエスという
方を受肉させることと捉えられ、missio inter gentesと呼ばれます。

Missio ad gentesはmissio inter gentesと対立するのではなく、補い合うものです。それ
は、福音的価値を生きることによってキリストを告げ知らせる方法です。一人ひとりのキリスト
者、そして教会共同体全体による愛徳の働きは、キリストの姿を再び受肉させます。それは、
「gentes人々」を、キリスト教に改宗させる努力の対象と見なすのではなく、歓待して迎えること
のできる「客人」として、そして別のときには、私たちを迎え、友情を差し出してくれる「あるじ」と
して見る宣教のアプローチです。それは沈黙の、言葉のないあかしではありません。福音は、異
なる文化や宗教の**友人たちの中で（“inter”）信仰体験**を語ることによって、また折の良い時
も、予期しなかった時も、福音をささやくことによって、分かち合われます。

Missio inter gentesの主な目的は第一次福音宣教を促進することで、キリスト論的教義を
教えたり改宗させたりすることではありません。**信仰を与えるのは神です**。私たちではありません！
Missio inter gentesは、宣教師が、イエスがそうされたように尊敬をもって人々に仕え、
傲慢さや優越感を少しも感じさせず、謙遜に生活を分かち合うことを、後押しします。キリストへ
の信仰のこの生きた体験こそが、聖霊の働きを通して、イエスを知りたいという望みを目覚めさせ
ることができます。

■ 宣教顧問 アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと 分かち合いのために

- 私は、ゆだねられた子ども・若者にどのように福音をささやいているだろうか？
- サレジアンとしての私の存在が第一次福音宣教となるには、どうすればいいだろうか？



自分自身を深く発見する



ポルトガルを後にしアンゴラで1年間、ボランティアとして働くことは、どのような意味がありましたか？

この体験のおかげで、全く違う生活をすることができました。どこへ行くのか、何をするのか、私は知りませんでした；わかっていたのは、報酬無しに働くということだけでした！

私は、自分がこの世に存在していることの意味をもっとよく理解したかったのです。出発前、自分に言い聞かせました、「そのために何でも」しようと。それで、私はこの世でいちばん嫌いな仕事を願い出ることになりました - コンピューター・ネットワークの管理です；結果として、私の宣教の一年は、信じがたいほど素晴らしいものになりました。ですから私に言えるのは、出発点は全く違う生き方ができること、人々に心を開くこと、仕えること、そして自分を深く発見することです。

自分自身について何を発見しましたか？

ボランティアの経験は、現在の教師としての仕事に役立っていますか？

全く新しい世界を発見しました。アンゴラで最も危険なスラムの一つに私は暮らしました。そこの人たちが抱えている困難、ニーズ、喜びを味わいました。学校でストリート・チルドレンに教えました。そして人生を全く違う観点から見ようになりました。今、教師として、その経験が役に立っているか？ それ以上のことだと言えるでしょう……私の生徒一人ひとりに人生の物語があり、それぞれの物語にスペースが与えられて然るべきだと今は理解できるようになりました；学校はただ何かを学ぶところではなく、「在る」ことを学ぶところなのだ。ボランティア・ミッション後のこのものの見方は、アンゴラで宣教師として共にいた人たちのためにそうしなければならなかったのと同様に、今、ポルトガルで、仕事で任されている子どもたちに私の心を開かせてくれます。

サレジオ会員と親しく接しながら暮らすのはどうでしたか？

サレジオ会員に提案することはありますか？

アンゴラにいる間、さまざまな修道会の会員と出会い、多様な生き方、神に仕える道があることを理解しました。時には、サレジオ会員の生き方が変わっているように思えました：重症の仕事中毒のように見えます。でも結果的に、助けを必要とする人たちのために労を惜みず働く素晴らしい模範、教育と若者への愛の素晴らしいお手本を、私はもらいました。

提案ですか？ そうですね、何かな… たぶん、サレジオ会員は人のためにかけるのと同じくらいエネルギーを、自分たち自身を気遣うことにもかけたほうがいいと思います。最も近い人たちを世話しなければ、誰もよいことはできません。共同体の世話をすることが義務であるべきです。二つめは、カテケジスにサレジオ家族以外の聖人の紹介も入れるといいと思います。これはただ「提案」です。☺



ジョルジュ・フェルナンデス

ポルトガルのリバマル・ダ・ルリーニャ生まれ。新しいことや冒険に挑むことに情熱を注ぐ。コンピューター・エンジニアリングとプロジェクト管理を学ぶ。チェコ共和国で3年間、ソフトウェア開発の仕事をした後、サレジオ宣教ボランティアとしてアンゴラのルアンダで一年間、働くことを決める。

チェコのサレジオ会が母体のSADBAの養成を受け、派遣。アンゴラでのボランティア体験の後、故郷の町に戻り、教師として働く。人生をあますところなく楽しんでいる：家族や隣人の愛、太陽、ビーチ。

ポルトガル → アンゴラ

宣教部門からの新たな発信

- **カリエロLIFE** - 毎月の祈りの意向に関連するテーマを取り上げた1分間のビデオ。
- **サレジオ宣教の日** - SMD 2021の公式ビデオ。両ビデオとも(カリエロLIFEとSMD)、サレジオ会宣教部門のユーチューブ・チャンネルに多言語で掲載されます。
- **カリエロPIX** - 四半期ごとの小さな2枚組ポスター。世界各地のサレジオの現場を紹介する写真を掲載。カリエロ11と一緒に配信します。
- **「ひとりの父、ひとつの家族」** - 書籍。コロナウィルス禍におけるサレジオ会員の連帯の体験を収録。英語版。イタリア語版とスペイン語版を準備中。

4月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

基本的人権

南スーダンで基本的人権のために働く、サレジオ会員、信徒協働者、ボランティアのために。

独裁や専制政権のもとで、また民主主義社会であっても危機的状況の中で、基本的人権のために命をかけて闘う人々のために祈りましょう。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アフリカ
のために

